

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32638

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02558

研究課題名(和文) エリザベス朝の戯曲本におけるイタリア的要素の実証的研究

研究課題名(英文) Italian Influence on Elizabethan Drama

研究代表者

富田 爽子(Tomita, Soko)

拓殖大学・付置研究所・客員研究員

研究者番号：30197925

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：近世初頭において文化的後進国であった英国は、イタリアルネッサンスの大きな影響を受けて、その文化を開花させた。その過程において、出版の果たした役割は極めて大きい。本研究は、エリザベス朝の演劇がどのような文化的背景のもとに誕生したかを探るものである。テューダー朝に英国で出版された書物、及び英国をターゲットとして出版された書物については、既にSTCなどのカタログがあるが、その後多くの研究がなされ、アップデートが求められている。本研究は既存のカタログ等をもとに新たな発見などを取り入れ、統計的手法を用いて、印刷業者、出版業者やジャンル、著者、翻訳者の実態を明らかにするデータベースの作成である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はエリザベス朝の劇作家たちが具体的にどのような書物から、時代の潮流を読み取って作劇にあたったかを探る試みである。この分野はSTCの第2版、ESTCやEEBO、又多くの研究者により新発見や修正がなされてきた。本研究はそれらを踏まえたデータベースの作成である。統計学的手法を用い、出版の概要だけでなく、本の生産に関わった著者、翻訳者、印刷・出版業者、パトロン、ジャンル、本の形態、出版地等、様々な角度からこの時代の出版物を取り巻く環境の検索、分析を可能にするものである。完成の暁には、英文学だけではなく、他の分野の研究者にも貢献できると考える。

研究成果の概要(英文)：England was a culturally backward country in the early modern period and was greatly influenced by the Italian Renaissance. In the process of absorbing Italian culture, publishing played an extremely important role and realized an unprecedented blossoming of Elizabethan culture.

This research explores the cultural background in which Elizabethan drama was born. There are already catalogues such as STC for books published in England and those published abroad with English readers in mind during the Tudor period, but much research has been done since then and updates are being required. This research incorporates new discoveries based on the existing catalogues and uses statistical methods to create a new database that sheds light on the actual situations of printers, publishers, genres, authors, and translators who produced these books.

研究分野：英文学

キーワード：英国ルネッサンス イタリア テューダー朝 印刷・出版業者 文化受容 著者 翻訳者 ジャンル

研究成果報告内容ファイル

1. 研究開始当初の背景

(1) 近世初頭において文化的後進国であった英国は、イタリアルネッサンスの大きな影響を受けて、その文化を開花させた。その過程において、出版の果たした役割は極めて大きい。応募者は既にエリザベス朝及びジェームズ朝において英国で出版されたイタリア本の書誌学的記述のカタログを編纂し、英国で出版している。*A Bibliographical Catalogue of Italian Books Printed in England 1558-1603* (Farnham: Ashgate, 2009; 単著、697 ページ) と *A Bibliographical Catalogue of Italian Books Printed in England 1603-1642* (Farnham: Ashgate, 2014; 共著、578 ページ) である。これらの書誌編纂の過程において、イタリア由来のこれらの書物が当時の英国の出版活動全体の中でどのような立ち位置にあるかを明らかにする必要性を痛感した。

2. 研究の目的

(1) 当時の英国の書物出版にかかわった人々（著者、翻訳者、印刷・出版業者など）の活動を総合的、実証的に明らかにする。そのうえで、イタリアの要素を色濃く反映している書物がどのような立ち位置におかれていたかを検証する。各書物のイタリア的要素を分析し、イタリア人と英国の文人や知識階級、及び、劇作家との関わりを検証し、イタリアが英文学や英国演劇にどのような影響を与えたかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) エリザベス朝の出版活動をより客観的に把握するために、調査の範囲をテューダー朝（1485年 - 1603年）に広げ、その間に英国で出版された書物、及び英国人を対象として海外で出版された書物合計約 15,000 冊を著者、翻訳者、印刷・出版業者、出版地、ジャンル、書物のサイズなどいろいろな角度からとらえ、各書物の実体を全体の出版の中で浮かび上がらせる。

(2) 各書物の個々の特性が出版全体の中でどのような位置にあるかを把握し、時代の流れを捕えるために統計学的手法を用いて、データベースを作成する。

4. 研究成果

(1) エドワード6世時代に関しては既にデータベースは完成している。エドワード6世時代は今まで、国民的レベルにおいてはイタリアの影響はあまりなかったとされていたが、このデータベースの作成により、わずか6年半という短い治世の間に、28冊ものイタリア由来の書物が英国で出版されていたことを発見した。当時大陸では、プロテスタントたちは弾圧されており、多くの高度な印刷技術を取得した印刷業者が英国に流れ込んできていた。そのおかげで英国の印刷は大いに発展することとなった。その亡命者の一人で、高い技術と商人としての鋭い才覚、そして時代を読み取る卓越した才能に恵まれたアント

ワーブからの印刷業者、スティーヴン・ミルドマンに焦点を当て、短期間に英国で第 3 位の出版数を誇るまで出世した彼の英国における功績を明らかにした。この研究成果は学会や 2 本の論文にまとめて既に発表している。また現在英訳中で、他の時代の研究成果と合わせて、出版する予定である。ヘンリー 8 世、メアリー 1 世、及びエリザベス 1 世時代に関しても、同じ視点に立ったデータベースを現在作成中である。ヘンリー 7 世時代についても調査を行う予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 富田爽子	4. 巻 48号
2. 論文標題 エドワード六世時代におけるイタリアとの邂逅	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 拓殖大学人文科学研究所 紀要	6. 最初と最後の頁 41-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 富田爽子	4. 巻 49号
2. 論文標題 スティーヴン・ミールドマンー出版から見るエドワード六世時代	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 拓殖大学人文科学研究所 紀要	6. 最初と最後の頁 51-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 富田爽子
2. 発表標題 エドワード6世時代の英国とイタリアの邂逅
3. 学会等名 日本シェイクスピア協会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------